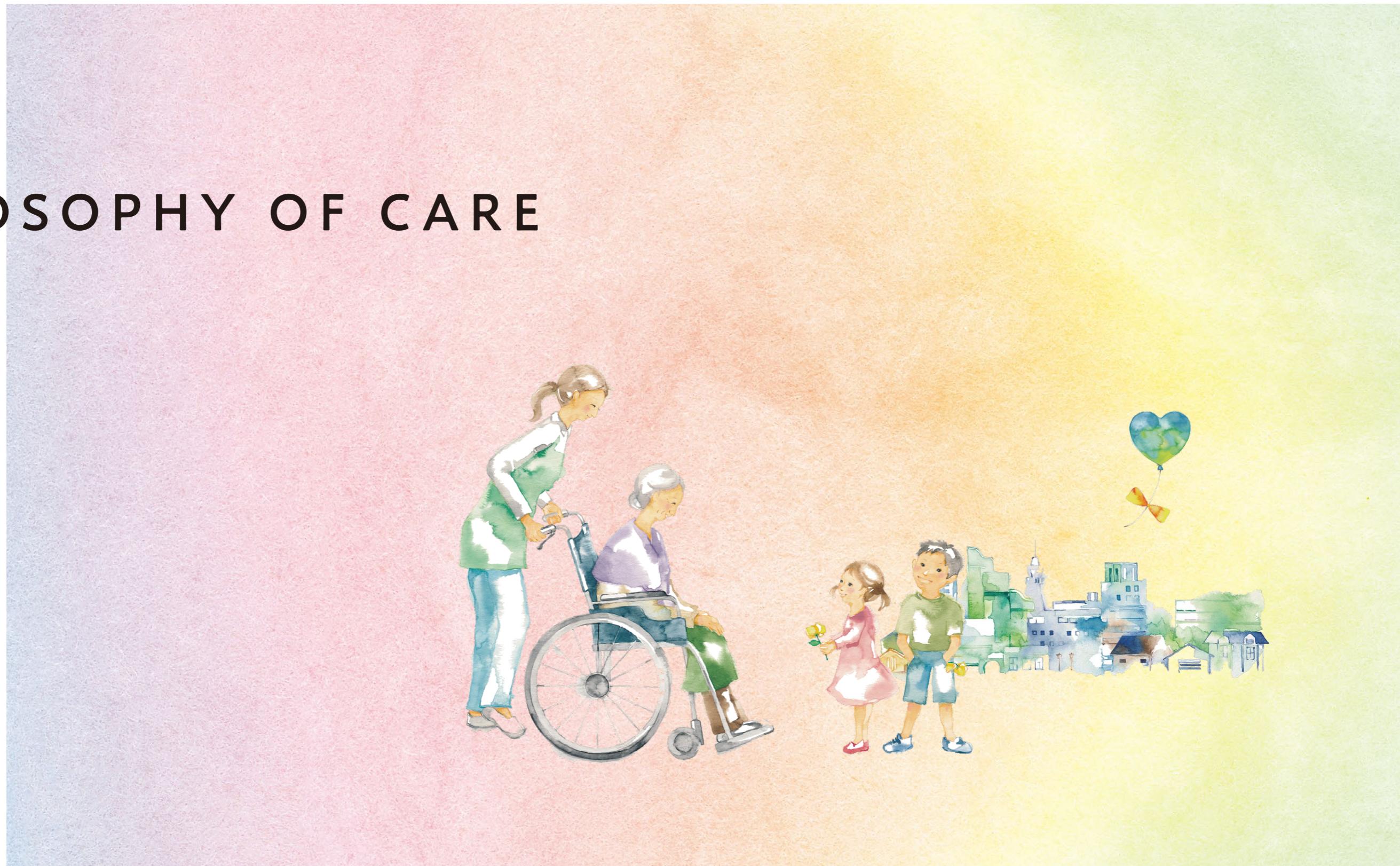


PHILOSOPHY OF CARE

介護理念ブック



ソラスト
グループ



SERVICE POLICY

ソラストグループ
介護基本理念

地域とともに自分らしく生きる
ご利用者スタッフともに幸せに



サービスポリシー

1.自分らしく生きる

2.優しい心・あたたかい手

3.安心・安全な環境

①自分らしく生きる

ご利用者とスタッフが互いに支え合う仲間として、尊厳と希望を持って生活できる共生社会の実現を目指します。

- すべての人がその人自身の意思によって「自分らしく生きる」生活を選択できるよう支援します。
- ご利用者・スタッフともに、生きがいとやりがいを感じられる生活の実現を目指します。
- ご利用者が個性と能力を十分に発揮し、互いに人格と個性を尊重しながら支え合う、活力ある共生社会の実現を推進します。

年齢を重ねてどのような状態になっても、自己決定を尊重し、住み慣れた地域の中で最期まで「自分らしく」暮らせるよう、地域・医療・看護・介護が融合したサービスを提供します。

- 最期まで自分らしく生活できるよう、緩和医療を支え、精神的側面を重視した支援を行います。
- 終末期ケアでは、個人の主体的な判断によるQOL(生活の質)を尊重して取り組みます。

ご利用者の生活を支援するスタッフ自身が、働きがいを持てる環境整備に取り組みます。

- 各専門職が互いに尊敬の念を持ち、異なる職種の間でも互いに理解を深め、連携、協働しながらポジティブに業務を遂行します。

②優しい心、あたたかい手

認知症になり、BPSD(認知症の行動・心理症状)が出現しても、周囲のサポートを受けながら尊厳を保ち、穏やかに生涯を過ごせるよう支援します。

- 長期的な視点で包括的にアプローチし、日頃から適切な介護を提供することでBPSDの出現を予防します。また、発症時には早期対応を行い、重症化を防ぐことを目指します。

ご利用者が個性と能力を十分に発揮し、経験や工夫を活かしながら、生涯を通じて充実感を得られるようQOL向上を追求します。

- ご利用者の多様な欲求や人生の物語を大切にし、豊かな感情と生きがいを共に寄り添いながら支援します。
- ご利用者の身体機能、ADL(日常生活動作)、IADL(手段的日常生活動作)のみならず、活動や参加に重点を置いた「こうしたい」「このような生活がしたい」という「願い」を叶える“介護リハビリ”を創造します。
- 正しい専門知識や理解を深め、その人らしい個性と能力を十分に発揮できるよう支援します。

③安心、安全な環境

テクノロジーを活用し、健康管理や安全な生活環境のサービス提供に努めるとともに、人としての思いやりの心を忘れず、その人らしく安心して生活を送っていけるよう支援します。

- ICT機器や見守りセンサー、AIなどのテクノロジーを手段の一つとして活用し、QOLの向上を主として介護現場の効率化を図ります。

リスク管理への意識啓蒙とチームケア実践のため、身体重度・認知症・医学的管理に関する理解および対応スキルを高める研修や指導育成に力を入れます。また、多職種間の情報共有・協働に努め、ワンチームで統一した安心安全なサービスを提供します。

- 各種加算(認知症チームケア推進加算・個別機能訓練・LIFE加算・中重度加算など)を活用し、ご利用者一人ひとりに対して指標を用いた計画的な評価を実施。評価の結果に基づき、チームケアの計画を作成・実施します。

高齢化社会における課題に向き合い、地域社会の一員として広く社会に貢献できるよう情報発信を行い、開かれた施設を目指します。

- 性別・年齢・障害の有無を問わず、互いに支え合い、認め合う社会の実現を目指します。
- 地域住民や多様な主体に参画し、人と人、人と資源がつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがいを共に創出していくことを目指します。



SERVICE PHILOSOPHY



サービス理念

1.自立支援と尊厳の保持

2.接遇

3.ワンチーム

4.テクノロジー活用 (介護知識/技術・AI/ICTツール)

5.安心安全

6.認知症ケア

7.介護リハビリ

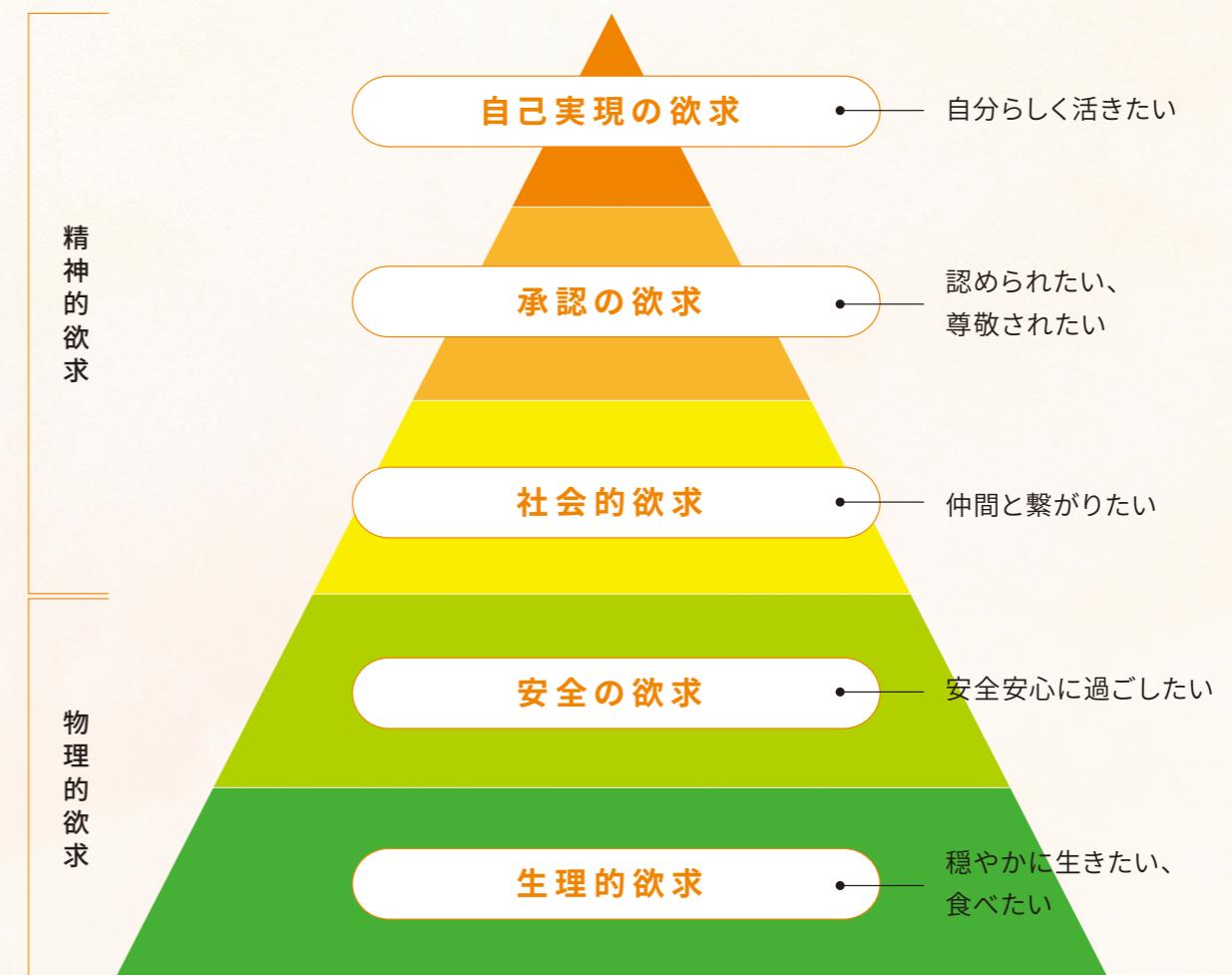
①自立支援と尊厳の保持

年齢を重ねてどのような状態となっても、自己決定を尊重し、ご利用者の真の欲求*を引き出しながら、住み慣れた地域の中で「自分らしく」暮らせるようサービスを提供します。

*真の欲求とは生理的欲求から自己実現欲求にいたるマズローの5段階の欲求段階説を指します。

- ご利用者の自己決定・自己選択を「自分らしさ・自己実現」として捉え、その実現に向け支援計画を立て、サービス提供を行います。
- ご利用者の心身の状態を常に観察し、その変化に即した支援計画に見直します。
- ご利用者の欲求の先にどのような希望があるのかを考え、それを叶えるための支援をします。

【参考】マズローの欲求段階説について



マズローの欲求段階説は、人間の欲求を5つの階層に分けて説明する理論です。

これをケアに応用することで、ご利用者の生活の質を向上させることができます。

マズローの欲求段階説について

生理的欲求

食事や睡眠など、基本的な身体の欲求を満たすことが最優先です。規則正しい食事や十分な休息を提供することが重要で、いら立ちや不安を取り除くことで、BPSDの予防に繋がります。

ご利用者の気持ち

穏やかに生きてたい

サポート体制

- 身体的苦痛のない、健康状態の維持
- 安定したバイタル値(体温・血圧・脈拍)の把握管理、医療機関との連携
- 適切な服薬投与、薬局との連携
- 心身機能の低下を予防し、さらに改善の可能性を追求

水分ケア：1日に1,500ml

バランスの良い食事ケア：1日に1,500kcal(塩分摂取量7g/日以下)

運動ケア：1日に2kmの歩行

排便ケア：3日以内の自然排便

心地よい睡眠の確保(ノンレム・レム睡眠を繰り返しながら平均8時間の睡眠)

安全の欲求

安全で安心できる環境を整えることが必要です。

例えば、転倒防止のための対策や、安心して過ごせる居場所の確保が含まれます。

ご利用者の気持ち

気持ちの良い生活環境で安全に暮らしたい

サポート体制

- まぶしくない程度の採光の環境(昼夜の明るさのメリハリ)
- 静かで清潔感のある整理整頓された環境
- バリアフリー、床面が滑りにくい素材、適切な福祉用具の選択
- ご利用者の身体にあった家具の高さ
- 移動歩行の動線の確保(コード類や物品が置かれていない)
- 全体を目視(見守り)できる職員の立ち位置
- ご利用者の様子や状況の情報共有が把握できるタブレットやインカムの活用

社会的欲求

家族や介護者との温かい関係を築くことが大切です。

孤独感を減らし、社会的な繋がりを持つことで、精神的な安定が得られます。

ご利用者の気持ち

周囲と繋がっていきたい

サポート体制

- 「生理的欲求」「安全の欲求」が満たされ、安全・安心な環境の中で自分らしい生活の維持
- 日常生活の中で出来ることへのアプローチやサポート体制により、自立心・自信を育む
- 家族やスタッフとの距離感・関係性を良好な状態に保ち、疎外感を感じない生活の継続
- 住み慣れた地域で、社会の一員として参加できる地域交流の実施

承認の欲求

自分の価値を認めてもらうことや、他者からの尊重を感じることが必要です。

できることをサポートし、成功体験を積む機会を提供することが有効です。

ご利用者の気持ち

周囲から認められ、役割を担っていきたい

サポート体制

- 生活歴・職業歴・家族構成・時代背景などのバックグラウンドプロセスを把握しご利用者が大切にしてきたことを尊重
- 性格傾向や生活習慣を把握し、快適な生活を送ることができるよう、個々にあったサービスを提供
- ご利用者の行動や言動に真摯に向き合い、その理由を理解し受け止めながら、望まれることをサポート

自己実現の欲求

自分の潜在能力を発揮し、自己実現を目指すことです。

趣味や興味を持つ活動に参加することで、充実感を得ることができます。

ご利用者の気持ち

自分らしく活きてたい

サポート体制

- 「生理的欲求」「安全の欲求」「社会的欲求」「承認の欲求」が満たされることにより、充実感のある日々の中で、ご利用者自身のQOL向上を目指す
- ご利用者が最期まで自分らしく生活ができるように満足感が得られるサービス提供

②接遇

常に前向きな姿勢とあたたかい笑顔で、気持ちに寄り添ったサービスを提供します。

- 気持ちの良い挨拶、心を込めた対応をします。「ありがとうございます」と言葉で感謝を伝えます。
- すべてのご利用者に「YES」でこたえます。
- 礼節(身だしなみと言葉使い)を整え、約束・時間を守ります。
- ご利用者視点のサービスとこまめな報告により、日頃の信頼を構築します。

⑥認知症ケア

感覚や想いだけに頼らない、根拠に基づく介護“BPSD対応、テクノロジー活用”を提供し、ご利用者とスタッフのQOL向上を目指します。

- ご利用者とスタッフが互いに支えあう共生社会の実現を目指します。
- 年齢を重ねてどのような状態になっても、自己決定を尊重します。
- 尊厳を保持して穏やかな生活を支援します。
- 地域社会の一員として貢献できるように、開かれた施設を目指します。

③ワンチーム

専門的な知識と技術に基づいて、統一感のあるサービスをワンチームで実践します。

- 目標達成のために、サービスや役割・職種に関係なく相互支援します。
- コミュニケーションを通じて、お互いの強みを活かすことができる関係性を構築します。
- 前例に囚われず、チームで改善のための議論を重ね実行します。

⑦介護リハビリ

身体機能、ADL、IADLにとどまらず、活動や参加に重点を置いた“介護リハビリ”を提供します。

- 多職種が互いの専門性を理解し、連携、協働してアプローチします。
- 自己決定を尊重し、ゴールを押しつけないようにします。
- 画一的なサービスを継続せず、ご利用者の変化に即したサービスを提供します。
- 「このような生活がしたい」という欲求を引き出し、一人ひとりの人生の物語を充実させるチャレンジに繋げます。

④テクノロジー活用 (介護知識/技術・AI/ICTツール)

ご利用者のQOLを高めるため、知識・技術の向上に努めるとともに、AI/ICTツールを積極活用し、安全に生活できる環境を整えます。

- より良いサービス提供のために、介護知識・技術向上のためのトレーニングを定期的に実施します。
- AI/ICTツール活用により業務の効率化を図り、サービス提供に集中できる時間を確保します。
- テクノロジーの活用および実践について、QOL改善の視点から評価を行います。

⑤安心安全

地域に関わるすべての方の安心安全かつ心豊かな人生の実現のために、環境改善に取り組みます。

- 安全はすべての判断・業務に優先します。
- いただいたご意見・ご提案は業務改善および相互の信頼関係を築くための機会と捉えます。
- 全員が心地よく過ごせるよう、常にクリンヌスなサービス環境を整備します。





solasto-kaigo.com